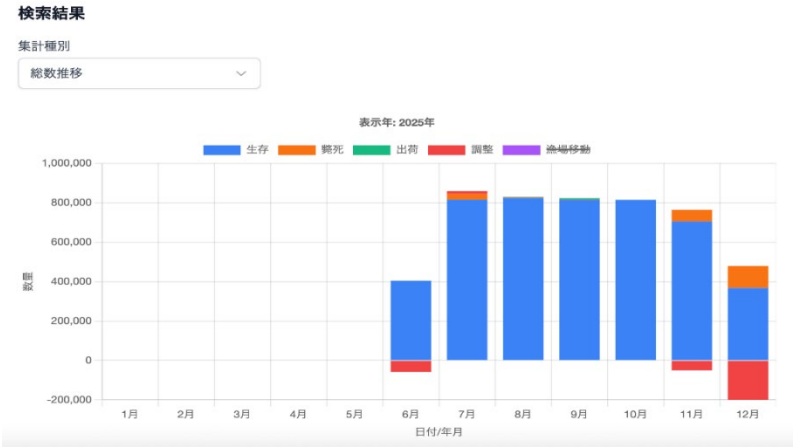
令和6年度補正GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト事例

事業実施主体：日本スマートオイスター輸出連携協議会
品目　　：（殻付き）活き牡蠣／冷凍牡蠣

	令和6年度	令和7年度	前年比
輸出額	約440万円	約1,160万円	**263%**
輸出量	約2.2トン	約5.8トン	**263%**



Oysmart 2.0のダッシュボード（サンプル画面）

課題

安定供給体制の不足
- ✓ 小規模な事業者が多く、安定供給が困難
- ✓ 生育状況や生産データの管理が事業者ごとに異なる

輸出コストと海外販路開拓
- ✓ 小口出荷による物流コスト増
- ✓ 継続的な販路確保が困難

取組

データ活用型の養殖管理の導入
- ✓ 養殖管理アプリ「Oysmart 2.0」の実装
- ✓ 生育、へい死、水温データ等を一元管理
- ✓ 生産キャパシティの拡大

輸出基準への対応と販路開拓強化
- ✓ 浄化施設整備・コンテナ輸送の実証
- ✓ 特設LPやSNSを活用したデジタルマーケティングの実施

成果

安定供給に向けた生産管理基盤を整備
- ✓ 全国8地域へシステム導入しデータ集約
- ✓ 経験則に頼らず、生産予測の精度向上
- ✓ 広域での供給調整が可能に

輸送コスト削減・販路拡大を実現
- ✓ 大ロット化により物流費が約36％削減
- ✓ 処理能力も4,000→1万個/日に増強
- ✓ 海外有力バイヤーとの直接取引を開始